

「統合」から「融合」へ 全学的な一体感を醸成

北里大学

2つの法人の統合による新学校法人のもとで2008年に再スタートを切った北里大学では、現在「Kitasato 100×50プロジェクト『未来科学の創造～Pioneer the Next～』」と称する創立記念事業が進行中だ。事業を通してインナーコミュニケーションに力を入れることにより“オール北里”としての意識を高め、学内が1つにまとまることをねらっている。

学祖・北里柴三郎の 精神に返って再出発

創立記念事業の命名の由来は、2014年に北里研究所が創立100周年を迎え、2012年に北里大学が創立50周年を迎えることによる。社団法人北里研究所と北里大学を設置する学校法人北里学園が法人統合し、学校法人北里研究所として、大学と研究所を運営するようになってから4年が経過。それぞれ異なる歴史や文化を重ねてきただけに、1つにまとまることは容易ではなかった。当初は、組織運営にギクシャクする面もあったというが、法人執行部による「統合から融合へ」の掛け声もあり、現在ではかなり改善が進んでいる。

周年事業の構想は、統合翌年の2009年4月から動き出しているため、事業自体が「融合」を意識したものになっている。遠藤尚光事務本部長は、「単に記念事業を実施するだけでなく、100×50周年を機に、学祖・北里柴三郎の精神を教職員や学生が再確認し、“オール北里”としての一体感を持ってもらうことによって、次の50

年、100年に向けて歩き出すきっかけにするねらいがある。2つの顔を並べた記念ロゴにもそんな思いを込めた」と語る。

ねらいはもう一つある。卒業生との関係強化だ。大学が誕生して50年が経過し、多くの卒業生が各界の一線で活躍している。周年事業を通して愛校心を深めることによって、卒業生からの支援を受ける契機にしようというわけである。

周年事業は2010年からスタートしている。しかし、東日本大震災の発生で一時的に中断したため、事業計画は1年半ほど遅れた。そこで、スケジュールを見直すと同時に、2012～2016年度の5年間を事業期間としてあらためて位置付けた。周年事業の最大の目的である学内の「融合」をさらに進め、学校法人北里研究所として生まれ変わった新しい北里のイメージを、学外にも広く発信することをめざしている。

学内意識を高めることに 1年間の時間をかける

記念事業期間の5年間は3段階に分

かれている。最初の1年が「インナーを結ぶ」、続く2年は「社会へ発信」、最後の2年が「社会といっしょに未来を創る」と、テーマに沿った施策が実施される計画だ。

第1段階では、周年事業に向けたインナーコミュニケーションを徹底して行う。学内各所に記念ロゴを配したタペストリー広告を掲示し、記念事業期間であることを常に認識できるようにしたのもそのためだ。

学生企画の募集も行う。地域・社会に対して北里研究所や北里大学をアピールするような学術的・文化的イベントやスポーツイベントの企画、あるいは記念事業を広く周知させる企画などのアイデアを募る。学生の積極的な参加を促すことにより、学内の活気を高めるためである。

学生運営スタッフの募集も始めた。シンポジウムや講演会など、記念事業の運営を手伝うアルバイト学生を登録。こうした活動を通してやる気が高まった学生には、記念グッズの作製などの企画を任せると同時に、

卒業生への広報にも力を入れる。母校への帰属意識を高めてもらうと同時



創立記念ロゴマーク。2対の瞳は次の世紀を見つめているという。

に、同窓会とタイアップして卒業生企画も募集する。

学会や学術的な催しでの発表の際に100×50周年の冠を資料に付してもらったり、周年事業に関するアンケートを実施したりするなど、教職員への意識付けも、順次進めていく。

「北里なヒト」が集える バーチャルな場を開設

周年事業に関するインナーコミュニケーションを進めるうえで特に重視しているのが、学生、教職員、卒業生など、北里に関係のあるすべての人たちがアイデンティティを共有することだ。同大学は全国に6つのキャンパスを持ち、全キャンパスの関係者が気軽に集うことは物理的に不可能である。そこで、関係者が一堂に会する「場」として、学内サイトに「Respect Life」という特設サイトを開設した。バーチャルな空間を活用して、全学的に仲間意識を高めようというわけだ。

このサイトには、教職員や卒業生のインタビューも掲載されているが、メインコンテンツは、北里関係者のメッセージである。自分が「北里なヒト」だと思ふ人なら誰でも書き込むことができ、メッセージを投稿した人の顔写真が、トップページに次々と流れていくデザインを採用している。

顔写真を公開したくない人には、生



周年事業記念特設サイト「Respect Life」

命科学関連分野に特化した同大学らしく、日常生活の中で「生命」を感じる写真とともにコメントを投稿できるコンテンツも用意した。サイトの周知が進むにつれて、投稿は増え続けているという。

コンテンツは今後も増やしていく。周年事業の事務を担当する片山祐司総務部課長補佐は「100×50周年記念の“ゆるキャラ”をつくり、そのマスコットを部署やグループ単位で囲んだ写真とメッセージを投稿してもらって別のグループに次々にマスコットを渡していく、一種の『友達の輪』のようなコンテンツも計画している。学食のテーブルにQRコードを付けて気軽に投稿できるしくみも考えており、多くの人の顔が見られるサイトをめざしたい」と話す。

新たなブランディングと 教育環境の整備を推進

記念事業期間の第2段階では、新しい北里を社会に広く周知することをめざす。2012年10月から記念講演会がスタートするため、北里の新しいイメージを伝える映像を制作して講演会の前に放映するなど、少しずつ社会への発信を始める。2013年度からはこれを本格化させる。

第2段階の大きな課題はブランドの再構築だ。北里研究所、北里大学に対

する認知度は高いが、統合して融合を果たした“新生”北里のイメージはまだ希薄である。そこで新たなブランディングを行い、さまざまな媒体を通じて広くアピールすることによって、新ブランドの定着を図っていく予定だ。

第3段階は、ハード面の整備が中心になる。東京・白金キャンパスでは本館の建て替え計画が進んでおり、神奈川県・相模原キャンパスでも医療系学部の校舎の全面的な建て替えが進む。学部単位ではなく、各学部の研究室を1棟にまとめるなど、機能別の校舎設計が予定されており、周年事業を通して、学部間の融合も進めていく考えである。

周年事業を統括する組織は、理事長を委員長とする「記念事業推進委員会」だ。その下に「企画・記念式典実行委員会」「記念講演実行委員会」「校歌制作委員会」「記念誌編集委員会」「募金実行委員会」があり、全学から教職員が参加している。とはいえ、「キャンパスが離れているためテレビ会議が多く、実質的に決定事項の承認に終始しがち」（遠藤事務本部長）なのが悩みの種だという。

周年事業の定番ともいえる記念誌刊行のあり方も課題になっている。記念誌は歴史を記録する重要な資料だが、一般にはあまり読まれることはない。北里を社会に広く伝えるには、写真や図版が豊富な冊子のほうが効果的なため、現在、その形態を検討中だ。

「本学では長期的な将来構想も策定しているが、今回の周年事業とは直接的にはリンクしていない。しかし、本学が直面した法人統合の問題を解決し、全学が一丸となって将来構想を実現していくには、この周年事業の成功が大きな原動力になる」と遠藤事務本部長は語っている。